

【学習指導要領国語科改訂の要点】より

漢字の指導については、日常生活や他教科等の学習における使用や、読書活動の充実に資することを重視して改善を図っている。読みの指導では、これまでどおり学年別漢字配当表に配当されている漢字を当該学年で指導することとするが、上の学年に配当されている漢字や学年別漢字配当表以外の常用漢字についても、必要に応じて振り仮名を用いるなどして児童が読む機会を多く持つようにする。また、書きの指導では、これまでどおり次の学年までに定着を図るようにするが、当該学年においても漸次書き、文や文章の中で使うようにしている。それは、日常生活において確実に使えることを重視し、実際に文章を書く中で繰り返し学習させるなど、児童の習得の実態に応じた指導を充実させるためである。

【小学校学習指導要領解説国語編第3章各学年の目標と内容(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)「ウ文字に関する事項」より

- 一 「へん」と「つくり」等の構成について知識をもつことと関係付けながら漢字の読み書きに関する指導を進める。
- 二 漢字辞典の使い方に慣れてきたら、自分で新出漢字の読みや意味などを調べる活動を取り入れる。
- 三 熟語が増える時期なので、漢字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、当該学年の前の学年までの漢字を意識して使う習慣化を図る。
- 四 部首と他の部分とによって漢字が構成されていることを知るとともに、実際の漢字についてその構成を理解すること。
- 五 文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くことと関連付け効果的に指導する。